

2024年度 附属竹早小学校・附属竹早園舎 学校園経営計画

1. 附属学校園の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- 地域の学校と連携して教育研究を推し進める役割

2. 東京学芸大学附属学校園教育目標

東京学芸大学附属学校は。在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り、自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

3. 校訓（小）・教育目標（幼・小）

校 訓 誠

創立当初より「誠」の一字を校訓に掲げ、時世の推移、思潮の変転にもかかわらず、星霜百年にわたって「誠」の精神を貫いて教育に当たり今日に至っている。

「誠」の校訓は、児童のみならず教職員、保護者にとっても「よりどころ」となるものである。本校が常に健全な社会であり、大切にしている「家庭的な雰囲気」を持続していけるよう、竹早小学校に集うすべてが常に「誠」を具現するよう努めなければならない。

園 舎 教 育 目 標

人や身近な環境に関わる中で、主体性と協同性をもち、自分らしさを十分に発揮する子どもの育成

学 校 教 育 目 標

自ら学び ともに手を取り合い 生活を切り拓く子の育成

4. 育てたい幼児・児童像

<育てたい幼児>

- 明るく元気に取り組む子
- よく考え工夫して遊ぶ子
- 自分も友達も大切にする子

<育てたい児童>

- 明るく元気に取り組む子
- よく考え工夫して学ぶ子
- いつくしみあい仲よく助け合う子
- よい生き方を求め続ける子

5. 中期経営目標

- 幼小中の連携教育に関する研究を行う場として、大学とも連絡を密にして研究を深めていく。
- 大学・企業・現場教員をメンバーとするイノベーション戦略会議を核として、「学校というシステム」の新しい具体的なモデルを提案すべく多様な実践検証を行っていく。
- 学習経験の違い，レディネスや諸能力の格差，学びに向かう力の違いなど幼児・児童の実態を考慮した多様な教育のあり方を研究する。

6. 2024年度経営目標

(1) 園舎学校経営の目標

◎何よりも安全を最優先に（重点目標）

* 子どもの「心の安全」対策の徹底

- ★いじめは絶対に許さない，どんなことがあって許されないという学校の姿勢のもと、学校生活の様々な場面で多様性を認め**寛容性**を育む。（**居心地のいい学びの場の確保**）
- ・学期ごとの自由記述式のアンケートや、「生命の日」集会後のアンケートなどから、いじめの早期発見、子ども一人一人の状況や友人関係の把握に努め、情報の共有化を図り、学校全体で組織的な指導を行う。
- ・コーディネーター，校内委員会を中心に特別支援の教育環境を整備するとともに、カウンセラー、養護教諭、医療機関、子ども家庭支援センター等と連絡を密にとり丁寧な生活指導を行う。心理実践実習生との連携を有効活用していく。

* 安全管理の基本姿勢「最悪の事態を想定した最善の備えを」

- ・事故の後に費やさなければならぬエネルギーを，事故を未然に防ぐために使う。
- ・日々，教職員一人一人が構内に危険な箇所がないかどうか点検に努める。
- ・「学校は，子どもたちにとって決して安全な所ではない」という認識をもって，日々の安全管理・指導にあたる。
- ・「昨日は何もなかった。今日も何も起きなかった。だから，明日も何も起こらないだろう」という姿勢が気の緩みを生む。安全に関しては常に緊張感，危機感をもって臨む。

* 日常の安全管理の徹底

- ・休み時間や授業中における日々の安全対策や登下校時のマナー・安全対策を見直し、徹底を図る。
- ・活動中は，指導者が責任をもって児童の管理（活動場所の安全確保，管理監督）にあたる。
- ・中休み，昼休み，放課後以外に児童が校庭，上校庭で過ごす場合，担任が責任をもって管理・監督にあたる。
- ・始業前，中休み，昼休み，放課後は，日直（**専科・低学年：上校庭，中・高学年：下校庭**）が責任をもって児童管理・監督にあたる。都合が悪いときは，事前に必ず代理をたてる。
- ・児童を必要以上に急かせるような無理な計画は立てない。
- ・日直の業務については，生活安全指導部から示された事項を遵守する。
- ・児童が校外で事故や事件に巻き込まれることがないよう安全指導を充実させると共に公共マナーの育成に努める。
- ・原則として下校時には**全教員で**春日二丁目バス停を中心とした下校指導を行う。
※バス利用について，春日駅，東京ドームシティ，茗荷谷駅各バス停で下車する児童は原則として徒歩とする。

○子どもにも保護者にも仕事にも「誠」の精神をもって取り組む

- *附属学校教員としての自覚をもつ。
- *学校が管理する個人情報以外に流出することのないよう、責任をもって管理する
- *先輩、同僚から学ぶ（見る、聞く）機会を自ら求める。
- *保護者からの信頼獲得に努める。
- *一人ひとりの子どもの思いに寄り添う
- *児童のけが（診療を受ける必要がある場合）や病気（入院の場合）については、迅速に管理職に報告する。

○教職員にとって働き甲斐のある職場環境（←個の尊重，自由・権利＝義務）に努める。

（2）教育活動の目標

「竹早の教育」がめざすもの

本校は、知・徳・体調和のとれた子どもの育成を重視している立場から、過度に点数にとらわれたり、競争をあおったりする教育を否定している。

本校教育の基本姿勢を一言で表現するならば、それは、「はじめに子どもありき」であり、「自己肯定感を育てる教育」である。本校の教育では、子ども自身の「願い」や「思い」の実現が常に尊重され、課題を自分事として追究していく過程で、より達成感を味わい、自己への肯定感を育むことを重視している。これは、他者への受容的態度にもつながるものと考えている。

本校の学習の目的は、元々ある形や枠を習得していくことではない。その子にとって必要であり、学ぶ価値がある内容を追究し、それを習得していく（好きなこと、興味あることに根気強く、ていねいに取り組み、内容をより高めていく）過程で主体的に生きる力を身につけることこそが本校でめざす学習となる。

私たち教員は、子ども一人ひとりにできるだけ寄り添ってその子の気持ちを受け止め、その解決や達成のために最大限の支援を心がけつつ、学校教育目標の実現をめざしている。

主体性を支える「自由」については、「義務や責任を果たしてこそ、はじめて自由を得ることができる」こと、自由を行使する責任の重さについても子どもたちが十分に理解できるよう指導していく必要がある。その過程を丁寧に行うことで、「自由」と「自分勝手」の違いを理解し、「集団や他者を意識し、豊かな生活、良好な人間関係を育もうとする」姿勢が根底にある主体性を追究していくことができる。

なお、当然のことではあるが、めざすものが学校側の一方的な思い入れだけであってはならない。社会のニーズ、保護者の期待が加味されてこそ、子どもにとって正に必要なバランスのとれた教育となる。

◎子ども自身の願いや思いを大切に活動創造・工夫する。（重点目標）

○異年齢集団による自治的な活動を大事にする。

＜基本的考えと具体的方策＞

- ・保護者には、「竹早の教育」をより正しく理解していただき支援してもらえるように、「学習活動の年間計画」（成長の過程→ゴール）を、そして日々の生活の中では「活動のねらい」「活動計画」「活動を通して身につく力（学習指導要領との対比、該当学年で身につけるべき基礎的基本的内容）」をできるだけ明確に伝える。
- ・活動を通して育った力や期待する姿を、児童、保護者に明確に伝える。
- ・枠や形がない以上、その教師の責任において学習活動や生活指導が進められ、ここでは当然、その教師の力量が求められることを自覚し、自己を高めるよう努力する。
- ・「竹早の教育」を進めていく上で、私たちが「児童から信頼され、児童と本気で語り合える教師」であることが必要不可欠であることを自覚し、あらゆる機会を通して資質向上に努め、（フレンドリーであっても）子どもたちから尊敬される対象にならなければならない。
- ・公教育の責任として、どの子にも基礎的・基本的内容を含む「目に見える学力」が定着するよう責任をもって指導（→ふり返り、補習）し、十分身につけていないと思われる内容や課題となる点については保護者に具体的に伝える（→保護者への説明責任）。
- ・竹早が積み上げてきた財産を大切にする。もちろん、今いるメンバーでよりよく変更することは恐れないが、竹早小学校独自の不易な部分を共有し、大切にする。
- ・縦割り活動の機会を積極的に設ける。
- ・各学年・クラスで異なって良いところと、共通性・一貫性・系統性をもたなければならないところを確認し、必要に応じて改善する。
- ・問題行動やトラブルを早期に発見し、迅速に解決する。
- ・生活指導上のきまりやルールについて、全学級、全教員が共通理解をして指導に臨む。
- ・あらゆる場を通して公衆道徳（校外、車内でのマナー等）を適切に身につけられるよう保護者と連携しながら指導していく。

（3）研究活動の目標

○国の拠点校及び地域のモデル校となるべく、本学と一体となって先導的・開発的な教育研究を推進する。

- ・附属幼稚園竹早園舎、附属竹早中学校との連携を密にした教育（幼小中連携教育）の推進
- ・教育課程特例校
- ・地域の教育への貢献（区・都教育委員会及び近隣学校との協力・連携及び支援体制）

◎「未来の学校プロジェクト」として、本学・企業と連携を密にとって開発的な研究のできる基盤を構築する（重点目標）

- ・大学・企業・現場教員をメンバーとするイノベーション戦略会議を核として、「学校というシステム」の新しい具体的なモデルを提案すべく多様な実践検証を行っていく。

○幼小一貫、幼小中連携の教育を大切にする

- ・「学びを深める場をつくる」をテーマに、各教科領域で実践授業をもとに研究を深化させる。
- ・主体的で協働的な姿勢や態度を育成することを目標とした、竹早幼小独自の「自己実現活動」（教育課程特例校）についての研究を深化させる。
- ・幼稚園単独、小学校単独でしていること同じ事はできないという前提に、一緒だからこそできる強みを生かしていく

○「竹早の教育」に責任をもつ 「竹早の教育」のスタンダードを大切にす

竹早地区における「主体性」とは
子どもがよりよく生きるために、自分（あるいは集団）の願いに基づき、自らの意思・判断で
行動しようとする姿勢や態度

* 国の拠点校として、竹早独自の教育研究を充実させ全国に発信する。

* 地域のモデル校として、地域の教育に貢献する。

（４）学生の教育・支援活動の目標

◎学生に教育実習の場を提供し、教員として優れた資質をもった人材を育成する。

（重点目標）

・附属学校としてこれらの使命を責任もって遂行することにより、我が国初等教育界に貢献しようと努める

（５）社会貢献活動の目標

◎附属学校の使命である地域の拠点校として特に、文京区教育委員会との連携を密にしていく。（重点目標）